

統合失調症のニューラルオシレーション異常に関する最近の知見と展望
Current Findings and Perspectives on Neural Oscillation Deficits in Schizophrenia

宮崎大学医学部臨床神経科学講座精神医学分野

平野 羊嗣

低次から高次の脳機能異常が複雑に絡む精神疾患の研究では、脳機能の客観的な評価や、脳機能異常を反映した再現性の高い**Functional Biomarker**の確立が欠かせない。その点において、生理学的脳機能検査である脳波や脳磁図は、刻々と変化する脳機能の評価には最適で、再現性も高く、デジタル化や革新的解析技術の登場により、再び注目されつつある。また基礎研究においてはオプトジェネティクス技術の登場により、脳波に関する臨床と基礎の知見の融合や、双方向的なトランスレーショナルリサーチが可能になりつつある。本発表では、精神疾患の中でも特に統合失調症における**Functional Biomarker**としての脳波データの活用方法や、現在取り組んでいる疾患横断的な脳波の多施設共同研究について、データベースの構築方法やその意義、また今後の課題や展望について概説したい。